

# 令和4年度 千早赤阪村立学校 評価報告書

学校名（千早赤阪村立中学校）

校長名（近藤 和 浩）

## 1. 教育目標

### 本校教育目標

『確かな学力をつける 豊かな心を養う 健やかな体を育てる』

めざす学校像	豊かな自然と少人数指導でのびのびと過ごせる学校
めざす生徒像	自分で考え、表現し、学びに向かう姿勢を持つ生徒
めざす教師像	明るく、優しく、前向きで謙虚な姿勢を忘れない教師

## 2. 経営方針

### 本年度重点目標

「わかりやすい授業で学力向上に取り組む」

今年度の重点目標は、ズバリ「授業」。授業にこだわって、取り組んでいく。

授業の「めあて」「ふりかえり」を意識して、1時間での学びに気づく授業。

教え込みの授業から思考・表現を大切にする授業。

生徒の挙手発言を促し、主体的に学ぼうとする姿勢を育む授業。

支援が必要な生徒にもわかりやすいユニバーサルデザインを取り入れた授業。

そんな授業を目指すとともに、テストの点数にもこだわり学力向上を目指す。

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 社会を生き抜く、確かな学力づくり
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KGG(くすのきぐんぐん)ノートやタブレットを活用した家庭学習の推進を行い、主体的に学ぶ力やこつこつ努力する力の育成を目指す。【学力向上】</li> <li>・デジタルシティズンシップの向上を目指し自主自立を促すため、生徒が「筆記用具」としてICT機器を扱えるようにする。【ICT】</li> <li>・4技能をバランスよく育むための学習や活動を積極的に取り入れる。【英語科】</li> <li>・ALTと連携し、異文化に触れ、知る機会を設ける。【英語科】</li> <li>・情報交換を密にし、一人一人の特性に応じた課題への対処や、支援の充実を目指す。また、専門性の向上を目指し、研修等を実施し、家庭や地域、各関係機関との連携を深める。【支援教育推進委員会】</li> </ul>
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に KGG ノートを配布し、家庭学習を進めるよう指導した。また、タブレットドリルの活用方法について指導した。【学力向上】</li> <li>・生徒自身が必要だと思う時に自由にタブレット PC を使用できる環境を目指し、「PC 保管庫の鍵を教師が管理する(年度当初)」→「PC保管庫の鍵は開けたまま、使用する時は教師が指示する or 教師に許可を取る(2学期中頃)」という形で段階的にPC使用の制限を緩めていった。【ICT】</li> <li>・4技能を育むために、日常の場面を想定したスピーキング活動、自分のことに関する英作、定期的にリスニング小テストを実施するなど、様々な面で英語に触れる機会を設けた。【英語科】</li> <li>・ALT との授業では、授業の冒頭のスマールトークなどに、ALT の出身国の文化に関する話題を入れ、異なる文化を知る機会を設けた。【英語科】</li> <li>・定期的に会議を開き、情報交換並びに現状の課題について話し合い、対策を講じた。支援学校の先生に来校していただき、必要な支援への情報を得た。【支援教育推進委員会】</li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期が進むと、徐々に KGG ノートの提出率が下がってきた。ただ、タブレットドリルはテスト前での使用率が高い。【学力向上】</li> <li>・授業や行事でタブレットを使う機会も増え生徒たちも以前より使い慣れてきているが、タブレットPCにかかわる生徒指導事案もあり、今年度 PC を筆記用具として使うという目標は達成できなかった。【ICT】</li> <li>・4技能に関しては、リスニングの機会は十分であった。リーディングや、英語での自己表現の機会をもっと設けるべきであった。異文化に触れ、知る機会は十分にあった。【英語科】</li> <li>・適宜情報交換を行い、対策できた部分については支援生もそれぞれの課題に向き合い落ち着いて学習できていた。目標にあった「専門性の向上を目指し、研修等を実施し、家庭や地域、各関係機関との連携を深める。」では、全体での研修などを設けることができなかった。【支援教育推進委員会】</li> </ul>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の大切さを生徒だけでなく、保護者にも伝え、協力をあおぐ。【学力向上】</li> <li>・次年度 2,3 年生は引き続きタブレットの自由化を目指し、1 年生は今年度と同じく段階的に進めていく。【ICT】</li> <li>・生徒たち自身、授業で習った英語を自信をもって活用できるように、スピーキングテストやライティング活動を増やすとともに、その練習時間も増やしていきたい。【英語科】</li> <li>・専門機関との連携を深めながら、学校全体の専門知識の向上を目指しつつ、全体化していく。【支援教育推進委員会】</li> </ul>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ 豊かな心、たくましい人づくり
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科については、各学年で年間の計画を作成し、22の価値項目を計画的に実施する。【研修部】</li> <li>・昨年度より人権学習を3か年計画で考え、今年度は2年目にあたる。各学年の重点人権課題を中心に、広く深く人権を学ぶ計画を作る。特に、生徒が当事者の目線に立った学習ができるよう計画する。【研修部】</li> <li>・体力・運動能力向上のため、デンマーク体操を年間を通して継続して行う。スポーツテストを実施する【体育科】</li> <li>・栄養教諭や地域の方とも連携し、味噌づくり・作った味噌を使っての調理実習をはじめとする食育に力を入れていく【食育担当】</li> <li>・卒業後の進路や将来に向けて、自己を見つめる機会をとり、自己実現につなげる。【キャリア教育担当】</li> <li>・郷土について興味関心を持ち、今年度からの郷土学習について継続して取り組んでいける内容を考え、取り組みを始める。【郷土学習担当(未定)】</li> </ul>
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施記録を学年ごとに作成し、使用教材が一目でわかるようにした。【研修部】</li> <li>・各学年の人権課題ごとに担当を決め、各学年の教師全員で当該学年の人権教育に関わることが出来た。【研修部】</li> <li>・体力・運動能力向上のため、デンマーク体操を年間を通して継続して行っている。6月にスポーツテストを実施した【体育科】</li> <li>・栄養教諭・地域の方々と連携し、1年生では味噌づくり、2年生では自身で作った味噌を使った調理実習を行った。【食育担当】</li> <li>・年5回のキャリアパスポートの記入のほか、各学年での進路学習、2年生の職業体験学習を行った。【キャリア教育担当】</li> <li>・2学期と3学期に外部講師による郷土学習を実施した。【郷土学習担当】</li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容項目の偏りが昨年までより小さくなった。【研修部】</li> <li>・細かい担当を決めたことによって、今まで以上に生徒にとって学びがある授業が多かった。【研修部】</li> <li>・体力・運動能力向上のため、デンマーク体操を継続して行っているため、毎時間しっかり運動量は確保されている。スポーツテストはきちんと実施することができた。課題としては、デンマーク体操もスポーツテストも、行う生徒一人ひとりの能力差もあるが、意欲次第で成果が大きく変わる【体育科】</li> <li>・家庭科教諭が変わっても指導を続けられており、今後も継続して味噌づくりを行っていきたい。【食育担当】</li> <li>・年5回のキャリアパスポートの内容は、3年間でおおむね定着し、定期的な自己分析につながっている。進路学習は各学年の段階に応じた内容を、生徒の状況を含めて検討し、工夫して行っている。【キャリア教育担当】</li> <li>・郷土学習について、身近な地域の話だが内容が大人向けで難しかった。【郷土学習担当】</li> </ul>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施記録を継続し、抜けや漏れがないように全職員に周知する。【研修部】</li> <li>・今年度、実施した人権教育の教材を残しておき、来年度授業計画する際の参考にしやすいよう残していく。【研修部】</li> <li>・来年度も引き続き、体力・運動能力向上のため、デンマーク体操を年間を通して継続して行う。スポーツテストを実施する。少しでも成果を出したいと意欲が上がるような工夫や声かけを実行していきたい【体育科】</li> <li>・来年度も指導内容を検討しながら、味噌づくりを行いたい。【食育担当】</li> <li>・今年度は職業体験学習において、3年ぶりに事業所に分かれた職場体験を盛り込んで行うことが出来た。今年度は状況が不透明で、直前に慌ただしかった部分があったので、来年度は計画的に学習や事業所との調整を行えるようにしたい。【キャリア教育担当】</li> <li>・郷土学習の内容について、教育委員会担当と協議し改善を進める。【郷土学習担当】</li> </ul>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 魅力ある教育環境づくり(3-1 安心安全な学校づくりの推進)
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自信と意欲を持った集団、支え合える仲間づくり」 ～みんなが生き生きと元気な、活気ある学校に～【生徒指導部】</li> <li><b>基本方針</b></li> <li>○学ぶ喜びを見つける生徒               <ul style="list-style-type: none"> <li>・規則正しく、正義の通る集団</li> <li>・一人ひとりの良さが集団の中で発揮できる</li> </ul> </li> <li>○思いやるやさしさを身に付けた生徒               <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの個性を認め合い尊重しあえるような集団</li> <li>・他の人への気配りができる</li> </ul> </li> <li>○弾むたくましさにあふれる生徒               <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつができる</li> <li>・行事等に全力で取り組むことができる</li> </ul> </li> <li>・食物アレルギーのある生徒を学校全体で把握するとともに、職員を対象とした食物アレルギーに関する研修を行う。【養護教諭】</li> <li>・学校施設等について、改善要求等を検討し教育委員会と連携して進める【庶務部・教頭】</li> </ul>
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談(学期に1回)</li> <li>・環境整備・安全点検(学期に1回)</li> <li>・クリーンキャンペーン(12月実施)</li> <li>・登下校指導(学期に3回)</li> <li>・避難訓練(学期に1回)</li> <li>・薬物乱用・犯罪防止教室(7月実施)</li> <li>・生徒指導内容の校内研修</li> <li>・交通安全教室(4月実施)</li> <li>・校内生徒指導連絡会(週に1回)</li> <li>・支援教育推進委員会(月に1回)</li> <li>・千早赤阪村立小中学校生活指導連絡協議会(月に1回)</li> <li>・生徒会活動・委員会活動</li> <li>・職員会議で食物アレルギーのある生徒を周知した。職員を対象とした食物アレルギーに関する研修を行った。【養護教諭】</li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SC や SSW から生徒と対応するうえで貴重なアドバイスをいただき、それを活用することができた。</li> <li>・適応指導教室の存在が学校としては非常に助けられた。不登校生にとっての居場所が作れたことが一番大きいし、ズームを通して学校とくすのきルームが繋がり、子どもの顔を見れたのも良かった。</li> <li>・村小中生活指導連絡会での情報が、中学校でも兄弟関係から対応できることが多かった。</li> <li>・環境整備・安全点検における修復の実現が出来ないことが多かった。</li> <li>・校則の改定。</li> <li>・自転車通学生の距離の見直し。</li> <li>・職員を対象とした食物アレルギーに関する研修は、栄養教諭と連携し、内容を改定しながら行うことができた。【養護教諭】</li> </ul>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SC や SSW との連携を密に測りながら、各関係諸機関や小学校の先生も含め情報交換を行い対応していく。また、SC や SSW や CSW や社会福祉士が生徒指導の定例会や情報交換の場に参席してもらえるようになると、より幅を持った対応が行える。</li> <li>・くすのきルームとの連携は継続しながらも、くすのきルームと中学校の交流をより強めていく。具体には、中学校の教員がくすのきルームに顔を出すことから始め、窓口になればよいと考えている。</li> <li>・小中加配の先生(理科・音楽)が、生徒指導に積極的に携わっていただけると、小中との情報交換が図りやすいケースもあり、中学校では見えない部分や背景などが分かり、解決の糸口に繋がるようなこともある。</li> <li>・登下校指導や地域の巡回の回数を増やして定期的実施する。</li> <li>・制服の移行期間に対する対応。</li> <li>・頭髪指導の難しさ。</li> <li>・来年度も、食物アレルギーに関する研修を行う。【養護教諭】</li> </ul>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 魅力ある教育環境づくり(3-2 学校および教職員の資質向上)
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の研修テーマを、「わかりやすい授業」を実践し、生徒の学ぶ意欲につながる学校教育の推進とし、誰にとってもわかりやすい授業ができるよう研修を行う。【研修部】</li> <li>・学校運営について教職員に示し、学校評価を全体で考えていく。【校長】</li> <li>・働き方改革を進めるうえで、長時間労働がないかを校務支援システムを活用し状況を把握する。また、長時間労働になっている職員がいると原因を探り状況改善を検討する。【校長・教頭】</li> <li>・PTA 活動について見直し、保護者の負担軽減および不公平感解消に向けて研究を進める。そのうえで、地域学校協働活動を進めていけるように、PTA から地域支援本部へと軸足を移していく。【校長・教頭】</li> <li>・教職員不祥事防止にむけて、普段の職員朝礼や毎回の職員会議等で啓発を行う。また、必要に応じて職員研修を行う。【校長・教頭】</li> </ul>
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員向けに「コミュニケーション」の研修を実施し、教員が生徒の課題を的確につかんだり、論理的にわかりやすく説明するための方策について学んだ。また、それぞれの教員が実践している授業のよいところを紹介し、互いに授業力を高められるよう取り組んだ。【研修部】</li> <li>・学校評価を各分掌や担当で記入し、全体で作成していくことができた。【校長】</li> <li>・日頃の長時間労働については、放課後に残っている職員の把握や校務支援システムで把握できた。【校長・教頭】</li> <li>・PTA 活動の見直しをすすめる。具体的には、毎月配布する学校だよりの裏面を通じて、PTA の活動実態や工夫改善方法の提案等を行った。【校長・教頭】</li> <li>・教職員不祥事防止に向けて、職員会議や職員朝礼、職員打ち合わせの時に情報提供や周知を行って、不祥事防止の啓発を行った。【校長・教頭】</li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が授業をする中で、今まで以上にわかりやすい授業展開や説明ができるようになった。また、互いの授業について議論することで、それぞれの教師が、よりわかりやすい授業になるよう改善することが出来た。【研修部】</li> <li>・学校評価は、各校作成すべきもので、全体で作成していくという認識はまだまだ定着していないように思う。【校長】</li> <li>・長時間労働が常態化しているような状況ではない。今後も、働き方改革を進める。【校長・教頭】</li> <li>・PTA 活動の負担感を減らし、必要最小限の活動で学校、保護者双方の負担感を減らすことができた。PTA を無くすことには一定の反対意見もあり、保護者がかかわる組織の無理のない継続を今後も考えていく。【校長・教頭】</li> <li>・教職員不祥事について、パワハラ、セクハラ等各種ハラスメントについては敏感になっていた。今年度はそういうハラスメントはなかったと思う。しかし、試験問題の出題ミスや採点ミスが生じた。【校長・教頭】</li> </ul>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教員が、今の自分の授業スキルに満足することなく、今以上によい授業にしていけるか、向上心を持てるよう、計画的に研修を行っていく。【研修部】</li> <li>・定着するまでは、しばらくこの様式で作成を継続していく【校長】</li> <li>・長時間労働を減らしていくため、会議等が長引かないように心がける。また、部活動の負担について、次年度検討をしていきたい。【校長・教頭】</li> <li>・PTA のありがたさは今後も検討していき、無理のない負担感を継続し、保護者が気軽に学校にかかわれる組織として運営していく。【校長・教頭】</li> <li>・今後も、ハラスメントに対して意識を高く持って、対応していく。【校長・教頭】</li> <li>・試験問題の作成については、複数名いる教科については、必ず問題のチェックをお互いで行うこととし、一人しかいない教科については、問題のチェックを管理職も入って行い、出題ミス等がないように努める。【校長・教頭】</li> </ul>

## 4. 教育自己評価

### 【教職員による評価】

学校教育アンケート(教職員版)として実施。

肯定的意見が高かった項目は、以下の10項目である。

- ・教育活動全般にわたり、評価を行い次年度の計画に活かしている。
- ・学校として、教育活動全般にわたり、生徒や保護者の願いによく答えている。
- ・教員は、生徒の意見をよく聞いている。
- ・各教科で指導目標を明確にし、指導方法の工夫改善に努めている。
- ・生徒の学習意欲・理解力に応じた学習指導の工夫改善を行っている。
- ・生徒自身が考えを深められるように、思考力を重視した学習を行っている。
- ・グループ学習などの学習形態の改善・工夫に努めている。
- ・生徒指導において、保健センター、子ども家庭センター等の関係機関との連携ができています。
- ・生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう、また興味・感心・適性に応じて進路選択ができるように進路指導を行っている。
- ・校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施され、内容も充実している。

これらを見ると、授業について指導方法や学習内容に工夫を行い、しっかりと取り組んでいると評価している。また、進路指導や校内研修も充実して実施できていると自己評価していることが窺える。また、生徒指導の連携についても、できていると評価していることがわかる。次年度以降もこれらの内容について、評価を下げないように取り組んでいきたい。

次に、肯定的意見が低かった項目は、以下の5項目である。

- ・学校の教育活動において、奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている。
- ・日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができています。
- ・教職員は、服務規律についての自覚が高く、法的遵守に心がけている。
- ・初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている。
- ・保護者や地域の人々と接する機会を多く持ち、開かれた学校となっている。

これらを見ると、授業等教科の取り組みについてではなく、体験学習やボランティア活動について、現段階であまり取り組んでいないという認識であることがわかる。12月にクリーンキャンペーンを実施しているものの、1年に1度なので、それほど取り組んでいないという認識なのかもしれない。また、授業や生徒指導のことでなく、職場のことや地域の人々のことなど、主に人間関係についてまだまだ十分ではないと評価していることが窺える。コロナ禍により、歓送迎会を含め懇親会の類を一切実施していないことや、校内清掃、体育大会のPTA種目の未実施などPTA活動の縮小等もそういう評価と関係があるのかもしれない。今後、教職員の働きやすい学校を目指すとともに、より地域に開かれた学校にするために、人間関係の構築や改善を意識していきたい。

### 【自由記述に寄せられた意見】

- ・パワハラやの雰囲気は以前よりはかなり改善されたと思う。一部の声の大きい人の意見で一方的に責められ不快な思いをすることがまれにあるし、他の教員に対しても同様な対応で言われている人が心配になることがまれにある。
- ・教職員の働き方改革を早急に進めて欲しい。特に、部活動における長時間勤務について。
- ・生徒に対してとても細やかに対応されている学校だと思いました。先生方も、一人一人に寄り添って考えて行動されているように思います。生徒もとても良い子たちだと思います。この気持ちのまま育ってくれるよう頑張っていきたいと思っています。
- ・校長先生、教頭先生いつもありがとうございます。
- ・教師同士で高め合える集団になったらいいなと思っています。

自由記述はそれほど多くありませんでしたが、昨年度に比べて職員室の雰囲気が改善されたという意見があった。昨年度に比べると、改善傾向はみられるものの、まだまださらなる改善を求められていると感じる。

また、教職員の働き方改革については、国(文部科学省)や大阪府、千早赤阪村の教育委員会からの働き方改革をしっかりと進めるとともに、学校現場の実情を伝えて改善を要望していきたいと思う。

## 【保護者・生徒による評価（学校教育アンケートより）】

学校教育アンケートとして生徒用と保護者用に分けて実施

保護者アンケートの結果、昨年度の同アンケートよりも肯定的意見が増加した。

特に高評価だった項目は『学校では、子どもに関するプライバシー（個人情報）が守られている』『学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる』『先生たちは、子どものことについて、適切に保護者との相談に応じてくれる』の3つである。

いじめや暴力のない学校という項目への評価が高かったことは、大変良かった。今後も、引き続きいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいきたい。

その他にも、学校行事や部活動、進路指導、評価の情報提供、道徳教育、家庭連絡や保護者連携、防災教育等の項目についても高い評価であった。昨年度に比べて、全体的に評価が高まったように感じる。高評価を維持していきけるように今後も取り組んでいきたい。

次に、評価の低かった項目は、『子どもは、授業がわかりやすいと言っている』『先生たちは、子どもをよりよく理解し、適切に評価している』の2項目である。昨年度に引き続き、授業に対して低評価であったことは真摯に受け止め、改善していきたい。今年度、わかりやすい授業を重点目標に掲げて、教職員自身工夫改善をすすめてきた。そのため、この評価も昨年度に比べれば、10%程度改善傾向が見られる。しかし、まだまだ課題の一つであることは変わらないため、今後もわかりやすい授業による学力向上を目指していく。

生徒アンケートの結果は、昨年度の同アンケートと似た結果になり、肯定的意見が若干減少した。

これについて、生徒の学校生活の様子を見ていて、昨年度に比べてそれほどできていないという感じは受けなかった。そのため、おそらく真面目に取り組む者が増えることで、要求水準が引き上げられた結果、昨年度よりも見る目が厳しくなり肯定的意見の減少を招いたのではないかと考えられる。

そんな中、肯定的意見が多かったのは『学校行事は楽しい』『先生たちは、生徒が間違っただけの行動をしたときに厳しく指導してくれる』『地震や火災などの災害発生時の行動について、きちんと知らされている』という3つである。これらは、昨年度も肯定的な評価が高かった。学校行事をきちんと実施できており、生徒がそれらを楽しいと評価していることから、中学校生活を楽しんでいる様子が見える。また、これらの次に高い項目で道徳や人権教育の充実が見られる結果も出ており、教科以外の学習の充実も生徒に届いていることがわかる。

逆に肯定的評価が低い項目としては、『わかりやすく楽しい授業が多い』『授業中、積極的に挙手したり、発言したりしている』『破損箇所はすぐに修理され、快適に生活できる環境になっている』の3つが挙げられた。挙手発言については、朝会等でも全体に呼びかけて意識していたのか、昨年よりも10%改善されたがまだまだ改善の余地はある。次年度にも意識して挙手発言をしてほしいと思う。破損箇所の修理の項目は昨年に比べ大きく下がった。トイレの壁面等修理未実施の場所が目立っているためではないかと思われる。できる限り早く修理してもらえるように、村に要望をしていく。

その他、自由記述等については、別紙参照。

## 5. 学校関係者評価

学校評議員会議よりいただいた主な意見

【1学期】

- ・一人一人の特性に配慮して生徒に合わせた支援の充実を目指すに関しては、適応指導教室との連携を密に図って進めてほしい。
- ・地域の方との味噌づくりは続けてほしい行事の一つです。地域に開かれた学校づくり、コツコツと積み上げていくことが大切だと思っています。
- ・郷土学習について、例えば保存会などの地域活動されている団体に協力を仰いでほしい。
- ・卒業生などでいろいろな職についている方々に仕事内容等について何かメッセージを頂いたり、講演などがあれば将来の参考になるのではないかと。
- ・AED講習などを教師だけではなく生徒も実施してほしい。
- ・コロナ禍の中、学校行事を実施していただきありがとうございます。クロスカントリーは復活してほしい行事の一つです。
- ・文化発表会は、できる限り6年生に見てほしいと思います。
- ・地域美化活動について、開催日を事前に地域住民に周知してほしい。子どもたちに声をかける機会、褒めたり労ったりする場となればと思う。
- ・全部役員がする必要はない。色々な仕事を全員の保護者が何かするようになれば、役員負担も減るのではないかと。

- ・「活動エントリー方式」でお手伝いが必要な行事ごとにボランティアで募ってはどうか。
- ・PTA 会費で購入されている物品等を周知し、活動そのものを続けるのか辞めるのかなどを議論してはどうか。
- ・全体的に熱心な先生方が多く満足しています。
- ・ホームページも常に更新して頂き学校の様子もわかりやすく見やすい。土日子ども達のために部活動に尽力して頂き感謝しています。
- ・全校に1箇所しかトイレがないというのは環境整備の面で問題なのではないかと思う。

### 【2学期】

- ・例年通りの行事が行えてよかったと思う。文化発表会の Web 配信をしてもらえると家族で見られて助かります。
- ・体育大会、子どもたちの生き生きしている姿が印象的だった。職業体験も今年はできてよかったです。村内の事業所などで体験できるのはとても良い経験になると思います。
- ・保護者が子ども達の成長を目にする機会が戻りよかったと思う。職業体験や大阪探索等、自分たちが体験してきた内容を可視化し発表する取り組みはとても良いと感じた。
- ・役員・実行委員の負担が少なくなるように改革されていると思う。保護者からなる PTA があって、地域の方へのつながりが広がると思います。
- ・地域に開かれた学校にしていくため、卒業性保護者組織等を構築してみてもどうか。
- ・文章を書く機会が減っているので、タブレットを使っての授業も大切ですが、短くてもいいので文章を書く大切さを教えて下さってもいいのかなと思う。
- ・学力差がある子に対する個別支援や放課後学習室の拡充を凶ってどうか。
- ・中学生英語 Camp のような取り組みを増やしていく。対象を1年生だけではなく2年生にも実施するのはいかがでしょうか。
- ・皆さん熱心なご指導をされており安心して子どもを預けることができると思います。
- ・新しい先生が増えお名前を覚えるのに苦労しています。学校全体の雰囲気は良くなり、活気があるように思います。クラブ活動も活発に頑張っているようで、試合や発表の場で発揮している姿を見ることができています。
- ・生徒会の活動が活発な点が素敵だなと感じました。
- ・自転車通学時のヘルメット着用について、今一度必要性を伝えてほしいと思います。先日、ヘルメットを前かごに入れて走行する生徒を見かけました。命にかかわることなので。

### 【3学期】

- ・自転車通学の距離制限がなくなってとてもありがたいという声を聴きました。ただ、自転車で並走しているのを見かけます。危ないと感じます。街灯が少ない道も危険だなと感じます。
- ・ホームページで学校の様子がよくわかるのでありがたいです。
- ・地区委員の立ち当番がたまにでも立って見守ってくれていたことが、自己の減少に役立っていたと思う。小吹台の出口や消防署付近の合流地点などは、事故が多い場所なので、気を付けて欲しい。
- ・部活動関係で、ママさんバレーや村のバレーボールチーム、卓球部や吹奏楽部の OB などにも声をかければ来てもらえそうに感じます。
- ・学校側の説明が届いて、加入者の減少にならなくてよかった。来年度以降も同じ問題が起きるので、しっかりと伝えていく必要がある。
- ・役員経験者がいつも同じような人より、色々な意見があるほうがいいと思う。
- ・以前は春の PTA 広報で先生の紹介があった。それで、どんな先生がいるかわかったので、そういうのがあればいいなと思う。
- ・子どもたちの主体性を大切にしているように感じる。とても素晴らしいと思う。
- ・生徒が真面目でいきいきしているのは、色々と生徒のやりたいという気持ちを押さえつけずに認めているからだと思う。
- ・先生と生徒の距離がとても良いと感じる。色々な先生とかかわっていつてもらいたい。
- ・学校と福祉機関(マザーズ等)が今後も連携していければと思う。
- ・オンラインを活用した学習支援などを実施してみてもどうか。

## 6. 第三者評価

実施せず。